指定管理業務評価表

施設名	小牧市第２老人福祉センター（小針の郷）		
対象年度	令和元年度	評価担当部	福祉部
指定管理者名	特定非営利活動法人ワーカーズコープ		
指定期間	平成３０年4月1日　～　令和5年3月３１日		
職員体制	常勤職員３人、非常勤職員８人		

１．利用実績

（1）利用者数　　計 92,718 人（前年度比　約８５％）

前年度利用者数 109,058 人

4月	5月	6月	7月	8月	9月
8,875 人	7,705 人	8,980 人	9,096 人	8,792 人	8,287 人
１０月	１１月	１２月	1月	2月	3月
8,372 人	8,365 人	8,170 人	7,841 人	8,235 人	０人

※　休館期間：新型コロナウイルスの影響により、令和元年２月 29 日から3月３１日までを休館。

（2）増減要因

年間の延べ利用者数は、30 年度と比較して 16,340 名減となった。その要因としては、３月が新型コロナウイルス感染拡大防止のため休館になったことの他、小牧市第 1 老人福祉センターが新築開館したことによる老人福祉センター施設利用者全体の流動性が高まったことが考えられる。

２．利用者アンケートの結果

実施期間	令和元年９月15日 ～ ９月21日 令和２年２月26日 ～ 3月3日 （但し、令和２年２月29日～3月３日まで新型コロナ感染防止のため臨時休館）	回答数	４７９人 ２５２人
利用者の主な意見	・老人会より卓球使用についての専用台の検討要望。 ・ロッカー鍵の交換についての検討要望。		
具体的な対応状況	・老人会による卓球専用台の要望については、事前予約による使用台の確保を実施することになった。 ・ロッカー鍵の交換については、不具合のあった鍵の交換を実施し、全てを使用可能とした。		

3．収支の実績

（単位：円）

		30 年度 (前年決算額)	元年度 (現年決算額)	2 年度 (翌年予算額)	備　考 （主な内訳、増減要因）
収入	指定管理料	68,250,000	68,895,080	69,800,000	
	事業収入	65,720	56,218	0	
	合計	68,315,720	68,951,298	69,800,000	
支出	人件費	24,386,705	22,595,125	27,713,000	
	報償費	1,431,760	1,527,380	1,625,000	外部講師に対する謝礼
	旅費	22,951	21,304	40,000	交通費
	需用費	20,343,762	16,163,449	16,763,000	消耗品費・水光熱費等
	役務費	311,988	327,438	333,000	通信運搬費・手数料等
	委託料	12,993,556	13,015,743	13,618,000	送迎費・保守管理費等
	その他	8,759,278	9,469,389	9,708,000	借上料・保険料等
	合計	68,250,000	63,119,828	69,800,000	

4．評価

項目	市の評価
運営業務	・市民の健康増進、教養の向上及びレクリエーション等、各種相談の場として、供与できる施設の存在を目指し、元気高齢者居場所づくりや、入浴、運動機能回復訓練、文化教室、健康教室への参加と健康・生活相談等のサービスを提供している。
維持管理業務	・施設・設備の点検を確実に行うとともに、報告書を作成して、関係各機関へ提出している。 ・清掃業務のマニュアル導入による標準化を行い、業務品質の向上に取り組んでいる。
自主事業	・健康教室は、従来のフラダンス健康体操、ヨガ体操、リズム体操教室に加え、新たに喜楽喜楽（キラキラ）エクササイズ教室を開講した。各教室は利用者に人気があり、毎回定員一杯の盛況となっている。また文化教室においても、創作和紙、カラオケ、民謡、水彩画・パステル教室を継続して開講し盛況となっている。 ・地域包括支援センター等関連機関との連携を行い、生活困難や認知症傾向のある利用者についてケア会議を実施し、情報の共有やケア対策など利用者ごとの支援体制づくりに努めている。
サービスの質	・利用者アンケートや日常における利用者の意見などにより、ニーズを把握し、サービスの質の向上に努めている。 ・利用者アンケートで老人会より卓球台使用についての要望があったため、事前予約による使用台の確保を実施することで、卓球をしやすい環境づくりに取り組んでいる。 ・職員が午前、午後館内を廻りながら、利用者とのコミュニケーションに努めている。
収支状況及び経費節減	・消耗品等の使用について、消耗品別の在庫管理表を作成することで在庫管理を可視化し、適切な管理及び経費の節約に取り組んでいる。

	・業務の再委託については複数社による見積を行い、経費削減に取り組んでいる。
その他 （緊急時の対応等）	・避難訓練、消火訓練は、個人、団体利用者に参加してもらい、年二回実施している。 ・緊急時の連絡網を整備し、全てのスタッフが見る事ができる場所に掲示している。 ・緊急対応時の対策として、消防署から出向して頂き、救急救命講習を受講した。具体的には、心臓マッサージ法、ＡＥＤ使用方法等を学び訓練を行った。 ・コロナの感染防止対策（職員のマスクの着用、アルコールによる消毒の徹底、定期的な空気の入替等）が実施されている。